

2011 年度春学期修士論文テーマ一覧

2011 年度春学期において、修士論文を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

氏名：堀川 宣和

題目：ソーシャルメディアによる消費者行動
の変化
—オンラインショップにおける商品類
型の再編—

梗概：オンラインショップの市場規模は 2009 年で 6.7 兆円に成長しているが日本全体の小売・サービス業に対して 2% に過ぎない。筆者は今後のオンラインショップの普及において、ソーシャルメディアが重要な役割をすると考える。現在のオンラインショップでの購入阻害要因として、インターネットおよびオンラインショップに対する不安感が最も高く、ソーシャルメディアがその不安感を軽減させる力があると考えられる。本論文は先行研究において、それら不安感が消費者のインターネットでの購買行動に対してどのように影響していたかの要約し、ソーシャルメディアがその購買行動に対してどのような変化をもたらせるのか、その可能性を論じる。

氏名：是澤 綾子

題目：クラシック音楽と社会をつなぐ機会創
出に関する研究
—中間支援プロジェクト「古音 Link」
の起業を通じて—

梗概：かつて、クラシック音楽は社会と密接につながる芸術として日常生活とともにあった。しかし社会の変化とともにその役割が変化し、今日の日本においては一部の愛好家のものとなっている。そこにはクラシック音楽にまつわる歴史及び過去の政策を背景とした「クラシック音楽と社会の乖離」という問題が存在する。

そこで、本論文では社会におけるクラシック音楽の有り様を再考し、求められる役割として、クラシック音楽と社会をつなぐ中間支援的存在の必要性を提示した。そして中間支援型プロジェクト「古音 Link」の起業とその一連の実践を通じて「クラシック音楽と社会をつなぐ機会創出」を行い、その実践プロセスと成果を示した上で、クラシック音楽と社会をつなぐソーシャル・イノベーションの意義について論じた。

氏名：池田 麻香

題目：コンテンツ産業の経済分析
—日本の事例をもとに—

梗概：ハーバード大学のナイ教授により提唱されたソフトパワー。ソフトパワーとは、軍事力のハードパワーと対となる言葉である。

国家の外交力は、軍事力だけではない。ハードパワーとソフトパワーが合わさっての国家の力なのである。

国の魅力によって外交力を高めるということも、将来の外交には強い武器となる。

では、日本のソフトパワーとはなんなのだろうか。

近年よく耳にするクールジャパン現象というものに着目し、本稿ではコンテンツ産業の中の、国産ゲーム産業を中心に、コンテンツ産業の問題点や現状を明らかにする。

氏名：丸谷 聡子

題目：学校と地域をつなぐ環境教育のコー
ディネートに関する実践的研究
—兵庫県環境体験事業における連携と
協働を通じて—

梗概：兵庫県は、2009 年度から全 805 公立

小学校の3年生を対象に「環境体験事業」を実施している。筆者は、自らが代表を務める『明石のはらくらぶ』の活動の一つとして、多くの学校から相談を受け、環境教育のコーディネーターとして、地域や専門家、行政等をつないできた。それらの実践からは、教員が身近な自然の価値に気づいたり、地域において行政、地縁組織、NPO等のワーキングネットが広がるなど多くの成果が生まれてきた。教員をはじめ地域の大人の意識が変わることで、子どもも変わる。本論文ではこれらの実践からESDの視点をもった環境教育コーディネーターが介在することが重要であると結論づけ、「学校」と「地域」をつなぐ環境教育のコーディネートモデルを提示する。